

5回生 選択科目「日本史 A」授業のシラバス

教科名	地理歴史	科目名	日本史 A	単位数	2単位
科目の目標	○我が国の歴史の展開を地理的条件や世界史と関連付けて考察させ、伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
教科書	現代の日本史 A (山川出版社)	副教材	新詳日本史 (浜島書店)、ゼミナール日本史 (浜島書店) 日本史重要語句 Check List (啓隆社)		

1 学習の目標

- (1) 世界史との関連や他国との結び付きに着目しながら、時代ごとの生活や文化の特色、政治・経済の移り変わりや時代を貫き説明できるわが国の特質や国民性などへの考察を深め、幅広い知識と教養を身に付ける。
- (2) 日々の授業を通して「問い」への追究を発展させるとともに、知識を活用したり、関連付けたりすることで、現代の諸課題につながる歴史的背景への考察を深め、自分なりの考えをまとめたり、説明したり議論したりする思考力・判断力・表現力を養う。
- (3) 歴史を学ぶ意義を模索し、主体的に粘り強く学び続ける態度を養う。

2 学習の方法

- (1) 授業について
 - 講義形式ばかりもよくないですし、かといって調べ学習や話し合いばかりに終始しても成就感が味わえるものではありません。「説明を聞く(書く)場面」「自分たちで学ぶ場面」どちらにも主体的な姿勢で、「なぜ?」と常に疑問や批判をもちながら意欲的に学ぶことが大切です。ただ聞いているだけでなく、積極的にメモを取ったり、自分で「まとめノート」を作成したりするなどすると、より理解や思考力が深まります。思考力・表現力は、ある程度の知識を基盤としないかぎり高まっていくものではありません。
 - 考察・構想したり、歴史的思考力や表現力を養ったりするために、次に示す「歴史的な見方・考え方」(例)を意識してください。
 - ◆時期・推移 … どのような「変化」がみられたか、どの時代にはどのような特色があったか
 - ◆比較 … AとBを比較してみて、どのような「共通点」や「相違点」があるか、そのことは何を意味しているか
 - ◆因果関係 … なぜか(背景・原因)、どのような影響をもたらしたか、どのような相互関係がみられたか
- (2) 復習について
 - まずは知識の習得が大切です。教科書や資料集を熟読すること(積極的にメモを書いたり、マークしたりする)、副教材を中心としてこつこつと何度も繰り返し復習(アウトプット)することが大切です。地道な努力を要します。
 - とはいえ「用語」を覚えるだけでは考查や模擬試験で良い成果は得られません。用語の意味について理解したり、大きな時代の展開を捉えて説明したり、様々な資料(文字史料、文化作品)についてのポイントがおさえられるように学習しましょう。
 - 知識の確認や復習を促すために「小テスト」を実施します。副教材(ゼミナールや一問一答集)の学習成果を試します。定期考查は共通テストや大学入試に準じた形式で、初見の問題を原則とします。主として知識活用力や思考力を問います。
 - 好きか嫌い、受験科目であるか否かによって著しく手を抜いたり、他教科の学習をしたりすることは絶対に認めません。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
① 関心・意欲・態度	我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。
② 思考・判断・表現	我が国の歴史の展開から課題を見いだし、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し表現する。
③ 資料活用 の技能	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付ける。
④ 知識・理 解	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立って総合的に理解し、その知識を身に付けている。

(2) 評価の方法(以下観点①～④は「(1) 評価の観点」と対応する) ※4つの観点を日頃の授業や考查等から総合的に評価します。

観点	評価材料											
	定期 考查	単元 テスト	小 テスト	実技 実習	発言 発表	作品	レポ ート	ノート	ワーク シート	討議	態度	
① 関心・意欲・態度	◎		◎		○		◎		◎	○	○	
② 思考・判断・表現	◎		◎		○		◎		◎	○	○	
③ 資料活用 の技能	◎		◎				◎		◎			
④ 知識・理解	◎		◎				○		○			

■本校で目指す生徒像と身につける資質・能力

高い知性						豊かな人間性			健康な心身		郷土愛と国際性	
探究心		情報活用力		調整力		自律心	寛容さ	感受性	生命尊重の心	強くしなやかな心身	日本人としての誇り	多様性の尊重
関心・意欲	問題発見力	情報収集力	論理的思考力	共感的態度	意見交換・調整力							
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
課題に関心をもち、問題発見・解決へ向けて意欲的に取り組むことができる。	生じている問題や今後生じうる問題について理解し、解決方法を提案することができる。	多様な視点から必要な情報を収集し、整理・分析して、意見に結びつけることができる。	事象や関係を把握し、多様な情報を理解し、整理・分析し、論理的に思考することができる。	相手の感情、思考、行動を理解し、共感を示すことができる。	他者の主張を理解し、自分の主張と調整し、互いに納得できる結論を得ることができる。	強い意志をもち、周囲に流されることなく、困難に立ち向かうことができる。	異なる価値観や多様な特質を理解し、尊重しながら、互いを高め合うことができる。	有形無形の美や自然に対し、その価値を素直に受け止めることができる。	命の尊さと健康の大切さを理解し、何より自他の生命を尊重することができる。	困難に負けない強い心と体をもち、あらゆる課題に対して柔軟な対応ができる。	郷土に対する深い理解と愛着をもち、日本のよさを伝えることができる。	世界の多様性を理解し、多面的・多角的な視野から他者と接することができる。

4 授業計画

月	単元	学習内容	評価の観点	考查等	資質・能力
4	(4)近代日本の形成と世界 ア 明治維新と立憲体制の成立 ◎第4部 近代・現代 第9章 近代国家の成立 ア開国と幕末の動乱 (5)	開国～明治維新に至る過程について、国際社会に組み込まれることに着目して理解する。 幕末期に、天皇中心の統一国家構想の萌芽～幕府滅亡に至る経過を社会経済の変化と関連づけて理解する。 明治新政府の諸制度の改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を理解する。 欧米の文化・思想の影響により日本を欧米諸国と同等の位置へ引き上げようとする一連の近代化政策がとられ、それが日本人の近代への覚醒をもたらしたことを理解する。	③④日米和親条約・日米修好通商条約の締結、開港による経済情勢の変化に着目して、幕末の政局の転換を理解できたか。 ②④公武合体、尊王攘夷運動、討幕運動に着目して、近代国家の基盤を形成となる明治維新の意義を理解できたか。 ②④藩閥争い・四民平等・地租改正・殖産興業政策などに着目して、明治新政府が強力な中央集権体制を構築していく過程を考察できたか。 ①③④欧米文化の導入による文明開化と欧米諸国と同様の姿勢をとるようになったアジア政策など、多面的・多角的にその影響をとらえることができたか。	※小テストは随時行います。	ABCD I JKLM ABCD I JKLM ABCD I JKLM ABCD I JKLM
5	イ 明治維新と富国強兵 (4)	政府の強力な中央集権体制の志向の中、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 欧米諸国と対等の地位に立つために国家的課題であった不平等条約の改正を行い、東アジアへの進出により欧米列強への仲間入りを目指した経過について考察する。	②④国会開設要求の運動などに見られる国民の政治的関心の高揚や、欧米諸国以外では初めて制定された大日本帝国憲法の意義についても理解できたか。 ①②④日本が近代国家として国際的地位を確立するため、条約改正やそれに伴う諸法典の整備など国内体制の確立を図り、朝鮮問題を機とする日清戦争により欧米に近付こうとした点について理解できたか。 ②③④日露戦争における日本の勝利がアジア諸国の民族独立や近代化運動を刺激した反面、その後の韓国併合や満州への進出の動きは国民の対外意識や近隣諸国の受け止め方への変化につながったことについても考察できたか。	1学期中間考査	ABCD I JKLM ABCD I JKLM
6	イ 国際関係の推移と立憲国家の展開 ウ 立憲国家の成立と日清戦争 (5)	日露戦争の勝利による欧米列強の仲間入りの経緯とその後の植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連付けて考察する。	②④立憲政友会の成立から桂園時代に至る過程について、軍備の拡張の視点を踏まえて考察できたか。		ABCD I JKLM
7	エ 日露戦争と国際関係 (6)	立憲体制成立後から第一次世界大戦にいたるまでの国内政治の動きを、政党と藩閥の抗争などの視点から理解する。 日清・日露戦争前後にかつて資本主義国家の基盤が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して考察する。 近代産業の発展に伴う社会問題・労働問題の発生や、国民生活の向上について考察する。	②④殖産興業政策を基礎に、産業基盤の整備の進行、繊維・軍需産業の発展、重工業の形成などに着目して資本主義の確立過程を総合的に理解できたか。 ①②④寄生地主制の進展、社会運動の発生、それに対する大逆事件などの弾圧に着目できたか。また、出版・交通・通信などの面で生活様式が近代化した身近な例を見つけられたか。		ABCD I JKLM
8	ウ 近代産業の発展と近代文化 オ 近代産業の発展 (5)	伝統的な文化のうえに欧米文化を取り入れた国民的な性格を持って成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって理解する。	②④国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究の風潮、欧米の科学技術の導入、高い就学率を誇る教育の普及・拡充に着目して、国民が主体的に文化の創造に取り組んできた姿勢を考察できたか。 ②④第一次護憲運動以降、政党勢力が国民統合の中心的役割を果たしていく過程を理解し、欧米～アジアに至る広範囲の国際環境の推移に着目し、第一次世界大戦を考察できたか。	実力テスト(夏季休業明け)	ABCD I JKLM
9	カ 近代文化の発達 (1)	第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて考察する。	②④大戦景気に着目して、資本主義の発展による産業構造の変化や労働者増加など社会構造の変化について考察できたか。また、米騒動や原敬内閣の成立に着目してデモクラシー思想の変遷による政党の役割と動向について考察できたか。 ②④ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や日本の大陸進出に対する中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目できたか。 ②④社会主義・労働・農民・部落解放・女性地位向上など様々な社会運動に目を向け、普選運動・護憲三派内閣の成立・治安維持法の成立などに着目して政党政治を考察できたか。	1学期末考査	ABCD I JKLM ABCD I JKLM
10	イ 第一次世界大戦と日本の経済・社会 (3)	ワシントン体制に至る国際的協約体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して考察する。	②④戦後景況に着目して、欧米文化の関わりとその浸透度、社会風潮との関連付けに着目して考察できたか。 ②④戦後恐慌・関東大震災・金融恐慌・金解禁・世界恐慌・昭和恐慌・農業恐慌などを取り上げ、国内の経済対策と経済の動向について理解できたか。 ②④無産政党の誕生など社会主義運動が高まる中、軍部が中心となって協約外交から山東出兵などの積極外交へと転換していく過程を考察できたか。 ②④満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の対外政策について、五・一五事件などの国内の状況も踏まえて考察できたか。		ABCD I JKLM
11	ク シントン体制 (10)	民主主義的風潮による社会運動の動向を理解すると共に、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について理解する。 労働者や都市中間層拡大による大衆社会の基盤成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、市民文化の特色を理解する。 戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内外の状況について、経済対策はもとより政治・経済の動向にも着目して理解する。	②④管理通貨制度への移行、新興財閥の台頭、思想的転向の続出などを踏まえ、二・二六事件以降の大軍拡への過程を考察できたか。 ②③④中国動向など国際関係の変化、日中・WWⅡ・太平洋戦争それぞれの性格、戦時経済と国民生活・文化など、多角的に考察することができたか。 ①②④連合国と枢軸国の性格の違いや国民生活を犠牲にした総力体制などを踏まえ、日本がアジア諸国への加害者であると同時に広島・長崎への原爆投下など空前の被害者であったことに着目できたか。	2学期中間考査	ABCD I JKLM ABCD I JKLM
12	キ 市民文化 (1)	社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協約外交が挫折していく過程を考察する。 日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出の拡大による政党内閣の崩壊過程も踏まえて考察する。 恐慌から脱出し、ナショナリズムが高揚する日本において、二・二六事件以降ますます軍部の影響力が増大していく過程を考察する。			ABCD I JKLM
1	ク 加軍部の台頭 (5)	日中戦争の勃発～太平洋戦争突入に至る過程について、国民生活の変化や藩閥制に着目して全体主義的体制の進展を考察する。 第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。 戦後の占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を理解する。			ABCD I JKLM
1	ウ 第二次世界大戦と日本 キ 第二次世界大戦 (6)			実力テスト(冬季休業明け)	ABCD I JKLM ABCD I JKLM

